

# 白河歴史探訪

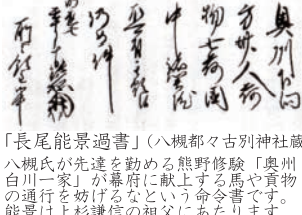
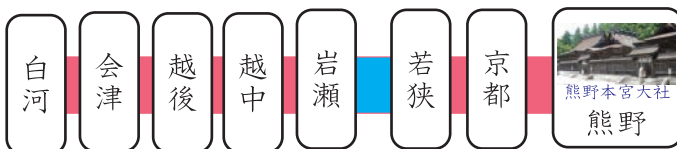
## 白河結城氏と熊野修験との関わり

修験道は日本古来からある山岳信仰と仏教、神道が合わさった宗教で、高い山に登り修行をすることで呪力を得、加持祈祷により現世利益を求めるのが特徴です。白河結城氏領内でも修験道は盛んで、八溝山の「八溝観音堂」は修験道の道場となっていました。その中心的な役割を担っていたのが、現在も八槻都々古別神社（福島県棚倉町）の神主を勤めている「八槻氏」でした。

修験道の本場といえば、世界遺産「紀州熊野」。平安の昔から「蟻の熊野詣」と言われるほど多くの人々が熊野三山に参詣しました。白河でも熊野信仰は盛んで、八槻氏を先達（案内役）とする参詣グループが長い道りを歩き熊野へ詣でました。福島県内には日本最多（福島県神社庁調べ）の**275社**の「熊野神社」があることから、当時の熊野信仰の熱狂ぶりがよくわかります。

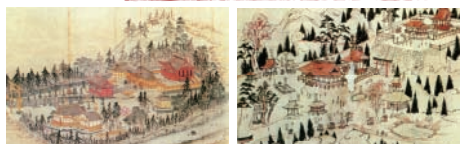
白河結城氏は白河における熊野信仰の大旦那として彼らを庇護し、その代わりに京の都までの交通網を熟知している熊野修験組織と結びつくことで室町幕府とも容易につながりを持ち、一族の版図拡大を図ることができました。熊野信仰の持つ宗教的権威をうまく利用したと言えるでしょう。

### 白河から熊野までの道のり ※青い部分は海路

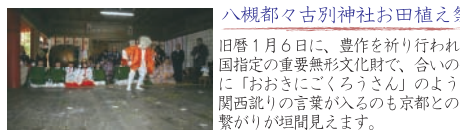


「長尾能景過書」(八槻都々古別神社蔵) 八槻氏が先達を勤める熊野修験「奥州白川一家」が幕府に献上する馬や貢物の通行を妨げるといふ命令書です。能景は上杉謙信の祖父にあたります。

### 八槻都々古別神社 馬場都々古和氣神社



八槻都々古別神社古絵図 馬場都々古和氣神社古絵図 「八槻都々古別神社」「馬場都々古和氣神社」共に奥州一ノ宮とされる由緒正しい神社です。過去には神仏混淆（神も仏も祭ること）し、白河における熊野信仰の中心となりました。八槻氏は修験組織「奥州白川一家」の中心として強い勢力を誇ったと伝えられています。

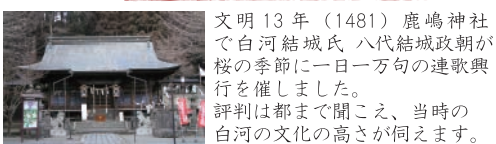


### 安珍・清姫のエピソード

白河より熊野へ参詣中だった「安珍」という僧が、旅の途中「清姫」という女性に見初められますが、安珍は「参詣中の身なので、帰りには必ず寄ります」と騙し、寄らずに立ち去ります。騙され怒りこらった清姫は蛇に身を変えて火を吹きつつ安珍を追い、紀州の道成寺へ追い詰め、梵鐘の中に逃げ込んだ安珍を焼き殺してしまいます。この伝説は歌舞伎の演目「娘道成寺」など、数々の作品に影響を与えています。安珍堂（市内萱根田）では毎年3月27日に安珍の命日を供養するため「安珍念仏踊り」が踊られます。



### 白河結城氏と京都との関わり



### 「宗祇戻し」のエピソード ※白河市内地図 ⑧

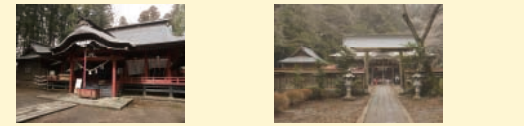
上記の連歌興行の噂を聞いた、都で名高い連歌師「飯尾宗祇」が奥州に下り、三十三間堂（市内旭町）の前を通った時女性に行きあい、連歌会の終了を告げられました。その時、宗祇は女の背負っていた綿を見て「売るか」と聞いたところ、女は「阿武隈の川瀬にすめる船にこそうるかといへるわたわありけれ」と即興の和歌で答えました。これを聞いた宗祇は奥州の風流に感心し、都へ引き返したと言伝えられています。

## 旧白河結城氏領に残るゆかりの史跡

「感忠銘碑」  
蔚然たる深秀、我が白河の東に在るものは、結城氏の墟なり。我之を望みて感ずる所有り。元亨・建武の間、土氣衰衰、天下擾攘として、利を視て避就せり。獨り宗廣・親光、中別宗潔、憤發して義を唱え、天下を率きて之に興せんと欲す。不幸にして克たず。以て身を殞せり。然れども猶東州の士民、南朝の天を戴くことを知るは、實に亦其の力なり。一時の忠烈、横公の外に能く標ぶもの無かりき。而るに今吾が民其の州人たるを知るもの鮮し。奚ぞ以て餘風を興さんや。財を損て予をして銘を勒せしめ、表して之を出す。公斯の擧を嘉し、題するに三天字を賜ふ。以て上方に刻す。嗚呼、子の忠魂數世の後此の偉標を得たり。其必すや笑を地下に含まん。吾が輩も亦興つて榮石巖巖、溪風肅然、劍佩復還。踪蹟刊せず。千年に輝映す。民自すから棄つること莫くんば、國能く賢を生ぜん」と

- 1 白河小峰城**  
二代宗廣の嫡男、親朝が築いた城。後に白河結城氏の本城となりました。結城氏改易後は白河藩の藩庁となり、現存します。
- 2 白川城跡**  
白河結城氏が白河下向後に築城し、関川寺にあった館から移った山城です。
- 3 感忠銘碑**  
江戸時代に作られた宗廣・親光父子の業績を伝える碑です。※表面に説明あり。
- 4 関川寺**  
源義家がこの林の廟があります。また、境内の中央にある枝垂桜は、通称「結城桜」と呼ばれる銘木です。
- 5 小峰寺 (しょうほうじ)**  
時宗の開祖「一遍上人」が創建したと伝えられる寺です。当初は市内藤沢山に建てられましたが、小峰城内に移築され、後に現在の場所に移されました。一遍上人は熊野で悟りを開いたと言われており、白河結城氏との関係が伺えます。
- 6 鹿嶋神社**  
八代結城政朝の一日一万句の連歌興行の舞台になりました。結城政朝は発句として「世を照らす花や御心 神の春」と詠み、父の直朝は「時知るや 鼓に響く 春の花」と詠じました。
- 7 うたたねの杜**  
源義家がこの林の下でうたたねをしたことからこの名がついたと伝わります。京都の聖護院（修験道の中心寺院）門跡「道興」が奥州まで遊行したとき、この杜を訪れたときの歌があります。「ちる花を たゝとときの 夢とみて風に驚く うた、ねの杜」
- 8 宗祇戻しの碑**  
都から来た連歌師「宗祇」がここで会った地元の女性の和歌に感心し、都へ戻ったという言い伝えがあります。※左面に説明あり。
- 9 白河の関**  
古来は蝦夷の南下を防ぐ為の防衛施設です。役目を失ってからは歌枕の地として有名になりました。道興「とめすとも かへらんものか 音にのみ 聞しにこゆる 白川の関」

**八槻都々古別神社** 棚倉町大字八槻字大宮 66 (JR 水郡線磐城棚倉駅から車で15分)  
**馬場都々古和氣神社** 棚倉町大字棚倉字馬場 39 (JR 水郡線磐城棚倉駅から車で10分)



**白河に「鈴木」姓の多いワケ**  
白河地域には「鈴木さん」がたくさんいます。全国の鈴木姓のルーツは熊野の別当であった鈴木氏に由来するといわれ、白河に鈴木姓の人が多いのは当時の熊野信仰の名残であると考えられています。